

ビタミンC60バイオリサーチ

林源太郎 社長

化粧品素材の供給を行うビタミンC60バイオリサーチ(本社東京都、林源太郎社長、03-3517-3251)は4月1日、世界初となる100%植物由来のフラレン素材「リポフラレン」の受注を開始する。

フラレン化粧品原料メーカーである同社は約4年間の研究開発を経て植物由来フラレンの開発に成功した。今後、同社が持つすべてのフラレン素材について、植物由来への切り替えを順次進めていく考えだという。同社の林社長に、フラレンについての今後の取り組みなどについて話を聞いた。

新開発のフラレン

既存の油性性フラレン素材「リポフラレン」の原料を植物由来に切り替えた「リポフラレンN」を、4月1日に発売する。従来品は、在庫がなくなり次第販売を終了する予定だ。年内いっぱい

の切り替え完了を見込んでいる。リポフラレンは、フラレンと植物由来のスクワランからなるが、今回の原料切り替えにより、ISO16128に基づいて「自然由来

全フラレン素材を植物由来に



を用いており環境負荷も低い。さらに環境への配慮という意味では、素材の容器を、従来のブリキ缶からキャップ付きアルミパウチに切り替える。使用後の廃棄物の体積が95%低下、重さも80%低下する。廃棄物の削減に役立つ。

安全性についてもヒトパッチテストにて陰性であることを確認。主要な安全性テストは「リポフラレンN」についても確認している。これまでとまったく同じように処方していただける。

「ラジカルスポンジ」など他の五つのフラレン素材についても順次フラレン原料の由来を植物由来に切り替えていく。ただ、フラレンとともに配合されている原料が各素材によって違うため、自然由来指数が1になるものもあれば、ならないものもある。来年いっぱいには、フラレン

「SDGs(エスディーズ、持続可能な開発目標)」の重要性が認識されるにつれて、「サステイナブル」「環境貢献」といったことがますます求められるようになってきている。米国においても、「環境負担が少なく持続可能性が高い」「有害成分を含まない」「ラベル(表示)の透明度が高い」「動物由来成分を含まない」といったことを要素とする「グリーンビューティー」がトレンドになっており、今後は日本国内でも、そうした要素が、消費者がモノを選ぶ重要な基準の一つになっていくと考え

指数」は、理論上の最高値である1(100%)になる。

由来は変わっても、フラレンという物質や品質には何の変わりもないため、抗酸化、美白、抗シワといった、フラレンの持つ効能に、何の变化もないと考えている。

植物由来に切り替える分、当社の製造コストとしてはアップするのだが、顧客には従来と同じ価格で提供する。当社のサステイナビリティを重視する思いから切り替

高級木材である宮崎県産の杉が原料だ。森林の持続可能で健全な管理をするために制定されたク

植物由来に切り替える分、当社の製造コストとしてはアップするのだが、顧客には従来と同じ価格で提供する。当社のサステイナビリティを重視する思いから切り替



新たに作った「植物由来フラレン」ロゴ(写真左)、「リポフラレン」ロゴ

「環境貢献」を追求する取り組みを進めていく考えだ。